

「邪魔者」を知恵と工夫で 観光の目玉に



流氷研究のメッカ

流氷は、わが国では、北海道のオホーツク海沿岸でしか見られないことから、昔から研究者の関心を集めてきたが、1965（昭和40）年に北海道大学の低温科学研究所は、紋別市に附属流氷研究施設を設置し、流氷に関する学術的研究を進めてきた。1969（昭和44）年には沖合50kmの範囲をカバーする流水観測用のレーダーを枝幸・紋別・網走に設置し、運用してきた。2004（平成16）年、国立大学の独立行政法人化に伴い、流水研究施設を廃止し、環オホーツク観測研究センターを設立して、流水観測レーダー施設を縮小、2005（平成17）年からの撤退を決定した。このことは北海道大学の事情によるものとはいえ、流水研究者だけではなく、レーダーの情報に頼ってきた漁業者や、観光業者をはじめ地域の人々に影響を与えている。

北海道では、流氷や海洋に関する科学的知識を一般の人々に分かりやすく、楽しく学ぶ場を提供するとともに、流氷に象徴されるオホーツク圏域の自然と生活文化に対する理解を深めるために、1991（平成3）年、紋別市に北海道立オホーツク流水科学センターを設置した。

また、紋別市では1986（昭和61）年以